

9月議会・議案外質問(9月13日) さはしあこ議員

さはし議員は、本会議で敬老パスを守るよう市長に質問しました。



経済効果も抜群・負担金引き上げはやめよ

「上げんほうがいいが、みんなに喜ばれる方策を」(市長)

9月9日の「今後の高齢者の生きがい施策の在り方検討分科会」で、敬老パス制度についての最終報告がまとめられ、高齢者の一部負担金の「引き上げは避けられない」とされました。10月に社会福祉審議会の答申として市長に意見具申される予定です。

市民の声や敬老パスの効果を棚上げした「まとめ」

さはし議員は、今年3月に名古屋市が実施した市民アンケートの結果を紹介し、対象年齢も一部負担金も利用限度額・上限額を設けることについても、高齢者も若い世代も「現状のままでよい」との回答が多数であることを明らかにしました。

さらに、この市民アンケートをもとに、民間研究所が分析した結果、敬老パスには絶大な効果があることが、あきらかとなったと指摘し、「まとめられた報告は、市民の声や敬老パスの効果を棚上げしたものと言わざるをえません」と追求しました。

経済効果は認める(市長)

敬老パスには、「社会参加効果」「健康効果」「経済効果」「環境効果」など様々な効果があり、「経済効果」だけみても「直接効果」で316億円、「波及効果」も加えると約500億円と推計されています。さはし議員は「さまざまな効果をもたらすことを、市長はどのように受け止めているか。その効果をより一層発揮させるために、どうすればよいと考えているか」とたずねました。市長は「経済的効果があることは、よお認めております」「どちらにしろ空気を運んだら、ほんだったら、ようけの人に利用してもらったほうが、ええんでないかという気持ちも、実はあるんです」と答えました。

引き上げは交付率の低下をもたらす

さはし議員は「引き上げは大きな負担になり、交付率の低下をもたらすのではないかとたずねましたが局長は「社会福祉審議会からの意見を踏まえ、市としての結論を出す」と答えるだけでした。

負担金の引き上げで外出が減る

さはし議員は「せっかく出かけるところをつくって

も、負担金が2万円、3万円と増えていけば、敬老パスをもらうのをやめ、でかける高齢者が減ってしまうのではないかと追求し、市長は「これから悩みながら考える」「4割が使つとらんもんで、こういう人たちにも喜んでもらえる方法、政策がとれたらええなあ」と答えました。



負担増の時にさらに負担を増やすのか

さはし議員は「介護保険料や後期高齢者医療保険料が値上がりした。消費税増税もせまっている。一方で、年金は減り続けている。こんな時に負担を増やしているんですか」と追求。市長は「負担が増えんように努力する」「上げんほうが普通はええけど悩んだら、大いに議論しましょう」と答えました。

さはし議員は「一部負担金の引き上げは容認できない」ときっぱり語りました。

敬老パスの事業費と一部負担金及び交付率・高齢化率の推移

